KC#571

1.　疲労強度計算における密度が 4 章付録 3 と 8 章 4 節[2.3.5]で異なっています。
8 章 4 節［2.3.5］では、最小密度は 1.0 です。
4 章付録 3 では、最小密度の規定はありません。

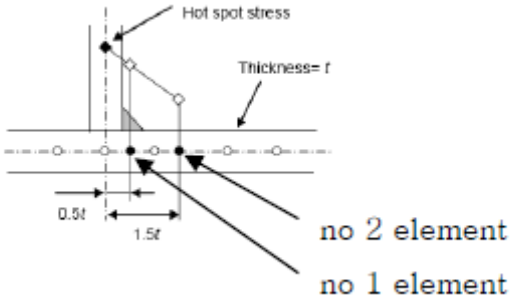
8 章 4 節[2.3.5]

$p_{CW,ij(k)}$：積付状態”(k)”で荷重ケース”i1”及び”i2”において、液体表面における液体貨物による慣性圧力(kN/m²)。

4 章 6 節表 1
表 1　ばら積貨物密度

積付種類	密度	
	BC-A、BC-B	BC-C
上甲板の位置まで貨物を積載する場合	$\max(M_H / V, 1.0)$	1.0
上記以外	3.0(1)	-
(1) 特に指定する場合を除く。		

4 章付録 3　注記 1）　M_H / V_H
M_H：実際の貨物質量

2.　7 章 4 節[3.3.2]の修正係数は、２つの板部材の交差部にのみ適用ですか、又は、２つの板部材の交差部及び板部材とブラケットとの交差部の両方に適用ですか。

3.　図中の No.1 要素の応力は、No.2 要素の応力よりわずかに大きい場合であっても、7 章 4 節[3.3.2]の修正係数は適用されますか。